

## 地産地消に向けた小麦栽培を支援しています

南加賀農林総合事務所 農業振興部



子供達による麦踏み



コンバインによる収穫作業

県内最大の大麦産地である J A 小松市は、麦の地産地消を推進するため、そのほとんどを輸入に頼っている小麦に注目し、27年ぶりとなる小麦栽培に挑戦しました。

これまで小麦栽培は、刈り取りが梅雨時期と重なり、雨による品質の低下が心配されることから、栽培が敬遠されてきました。このことから、当事務所では、小麦の生産安定化を図るため、

- ① 刈り取りを梅雨の晴れ間の1日で終了できるように、1地区当たりの作付面積を3ha以内に設定し、
  - ② 小麦栽培マニュアルの作成や管理情報の発信
  - ③ 肥料の量や時期を検討するための実証ほの設置
- 等の栽培指導を行いました。

昨秋は、小松市大島町、矢田町の営農組織が、麺・パンどちらの加工にも向く小麦品種「ゆきちから」を約6ha播種しました。

また、2月には、食育の一環として、地元小学生38人による麦踏み体験会が行われました。麦は踏まれることでたくずんぐりした姿になり、発根を促進して刈り取り時期に倒れにくくなります。

6月、梅雨の晴れ間をぬって行われた小麦の刈り取りでは、単収が約400kg/10aと予想以上の収穫を得ることができ、生産者も手応えを感じています。収穫した小麦は金沢市内で製粉し、地元の特産品である小松うどんへの利用や、直売所・道の駅などで小麦粉として販売することとしています。

今秋は、約13haの播種を計画しており、当事務所では、今後も栽培面積の拡大を図りながら、小麦の地産地消の取組を支援したいと考えています。

問い合わせ先：南加賀農林総合事務所農業振興部（0761-23-1703）